

# 現代タイ社会における若者の精霊信仰にメディアが及ぼす影響(2)

——2016年のバンコクの大学生のアンケート調査をもとに——

ボンサピタックサンティ ピヤ

## 要 旨

本研究の目的は、現代タイ社会における若者の精霊信仰にメディアが及ぼす影響を明らかにすることである。筆者は、2016年9月に、タイの若者の精霊信仰に対する考えかたを調査するために、タイ・バンコクの大学生を対象にアンケート調査をおこなった。

本論文は、この調査の結果および2015年の調査を元に、タイの若者の信仰と、それに対するメディアの影響に焦点をあてて考察する。本論文は、その調査の中で特に、マスメディアと精霊信仰の役割についての質問項目をとりあげ分析考察をめざすものである。また、2015年の調査と比較し、その意識変化を探りたい。調査の結果、タイの若者の多くは、テレビドラマやテレビ番組、映画から精霊に関するイメージや情報を得ていることが明らかになった。そして、若者がイメージする男性精霊は特定のものに集中しているが、イメージされる女性精霊は多様であることがわかる。さらに、現代タイ社会において女性の精霊は男性の精霊より怖いイメージで、男性の精霊は女性の精霊よりも優しいイメージで捉えられている。なお、2015年と翌年の調査結果を比較した結果、ほとんど違いは見られないが、特定の精霊はテレビなどのメディアに出演することによって、より一層イメージされやすくなる傾向にあることが明らかになった。このような研究結果により、タイの若者は、テレビや映画などのメディアに表象される精霊イメージの影響を受けていると考えられる。

キーワード：精霊信仰、精霊のイメージ、タイ、若者、メディア

## 1. はじめに

タイは、国民の9割を仏教徒が占める上座部仏教国であるが、同時に、ピー信仰と呼ばれる精霊信仰がいまだに根強い社会でもある。ピー信仰は外来宗教伝来以前からタイ族の間で信仰されていたとされ、後に仏教と習合し、日々の仏教実践に入り込んでいる。では、ピーとは何か。精霊やカミにあたる様々な超自然的存在を「ピー」と呼び、その意味するところは、土地・家・集落等空間の守護霊、祖先霊、田畑や山川草木の霊、幽霊・悪霊等様々である<sup>1)</sup>。

ピーは、大きく分けると、善霊と悪霊の2つに分けられるとされる。例えば、天界の精霊(ピー・ファー)や守護霊(テーパーラック)などが善霊の典型であるが、このような存在は、ピーと呼ぶよりもむしろ「テワダー(天使)」という概念範疇に含まれるものであろう。しかしテワダーと言っても、その神意に沿わぬ行動を人間がとるのであれば、テワダーの怒りにふれ、人間に災厄がふりかかることもある。ゆえにピーの概念区分は難しい。

ピーという存在は、人間の価値基準で善悪を決められるものではなく、気まぐれでいたずら好きであり、彼らのやりたいように行動する。人間のできることは、彼らが人間に害悪をなさ

ないように祀り上げ・慰撫し、常に人間に対し善い存在であるようにと、心がけることになる<sup>2)</sup>。このようにピー概念は曖昧な部分を多く残しており、また、後に仏教と共に入ってきたバラモン・ヒンドゥー的の神概念とも習合している。そのため、タイでは「ピー」という用語を単独で用いず「ピー・サーン・テーワダー」という表現で妖怪的なもの、神的なもの、土俗的なもの、外来的なもの全てを含んだものとして説明する。本論文で使用する「精霊」という言葉は、この「ピー・サーン・テーワダー」に相当するものである。

現代タイ社会において、農村部では、ピーは上述の土地神や先祖霊、守護霊といったカミの側面や妖怪・幽霊としての存在も含む多面的なイメージで理解されることが多いが、都市部では、「ピー」と聞いてまず人々に連想されるのは「幽霊」や「悪霊」である。宗教離れが進み、自然との関わりも薄い都市民にとって、こうした傾向はやむを得ないと言える。一方、都市農村を問わず、タイ人はホラー映画の好きな国民でもあり、毎年多くのホラー映画が制作され、映画館で上映される他、テレビでもホラー映画が再放送されたり、テレビ独自のホラー番組やテレビドラマが制作されたりしている。たとえば、2016年に上映されたタイ映画50本のうち12本がホラー映画(24%)である。2015年には63本中16本(25.4%)、2014年には70本中20本(28.6%)がホラー映画であった。そこで題材とされているのは、上述した「幽霊」や「悪霊」としてのピーである。

このように毎年作り出され、マスメディアやメディアにより社会に向かって送信されるピーのイメージは、タイの人々のピーに対するイメージや、ひいては精霊信仰自体に何らかのかたちで影響を及ぼしていると考えられる。

こうした背景のもとに、筆者は、2015年の調査とその結果<sup>3)</sup>を元に、2016年にバンコクの大学生へのアンケート調査を行った。その結果、タイ都市社会における若者の精霊信仰やスピリチュアルな志向に、マスメディアの果たす役割は大きいのではないか、という問題提起を行うに至った。特に、情報社会を生きるタイの若者が、メディアから精霊信仰に関するイメージや情報をどのように得ており、精霊信仰に対するイメージや実践においてどのようにメディアの影響を受けているのかという問題が、重要な論点として浮かび上がってきた。このような問題意識により、本研究ではタイの若者を調査対象として、現代タイ社会における若者の精霊信仰にメディアが及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。また、同様のテーマでアンケート調査を実施した2015年の結果と比較し、タイの若者の意識についてより詳細な理解に努める。特に、他の年齢集団に比べても移ろいやすいと想定される若者意識について、その変化の様相にも注目したい。

本研究は、先行研究では見落とされがちだった精霊信仰に関するメディアの影響の事例として、アジア圏に属するタイをとりあげて実施した調査の結果に基づき、考察をおこなうものである。先行研究について言えば、現代タイ社会における若者の精霊信仰とメディアとのかわりについて詳細かつ計量的に考察した研究は、筆者の知る限りほとんど存在しない。したがっ

て本研究は、タイの事例を提供するとともに、これまであまり検討されてこなかった精霊信仰とメディアの関連に関する研究の蓄積に貢献できるだろう。

## 2. 調査方法

まず、本研究の調査方法について説明したい。筆者は、タイの若者の精霊信仰とメディアの影響を明らかにするため、2016年9月1日から9日にかけて、タイ国の首都であるバンコク都内の複数の大学においてアンケート調査を実施した。

アンケート調査を実施した大学と人数は以下の通りである。タマサート大学（タープラチャーン・キャンパス、ランシット・キャンパス）、そして、チュラーロンコーン大学の大学生・大学院生の男女450名である。2つの大学とも、バンコク都の都心部に位置し、学生がメディアと接触する上で問題がなく、調査対象に適切だと考える。

次に、アンケート内容について説明する（付録参照）。先行研究にもとづき、本研究の研究テーマである以下の3つの項目にわたって調査した。1) 精霊（ピー）に関するイメージや情報を得たメディア、2) メディアを通して連想した精霊（ピー）の属性、そして、3) メディアを通して連想した精霊の性格のイメージである。以上3つの項目について調査したうえで、そこからさらにコード化して分析した。その結果、質問紙での質問項目は合計で9つとなった。具体的には、第一に、精霊に関するイメージや情報を得たメディアに関する質問項目が1つ、第二に、連想される精霊に関する質問項目が4つ、第三に、連想される精霊の性格に関する質問項目が4つである。基本的に、2015年の質問項目とほぼ同内容であるが、特に、自由回答欄に多く書かれた回答については、回答の選択肢として追加し、一方、ほとんど回答されなかった選択肢については削除をした。

上の質問項目に加えて、対象者の一般的な情報として、性別、年齢、出身地域、そして、信仰宗教に関する4つの質問も行った。なお、アンケート調査にあたっては、対象者の人権及び利益へ配慮し、統計的な処理を施すなかで個人情報やプライバシーの保護をおこなっている。

最後に、データの収集方法は以下の通りである。期間は2016年9月1日から9日にかけて、筆者とタイに居住する共同研究者が、各大学にアンケートを配布し、データを回収した。そして、すべてのアンケートのデータをコード化・入力した上で、統計解析ソフトウェアのSPSSによって分析を行った。

## 3. タイにおける若者の精霊信仰とメディアの分析結果

調査結果に基づき、本節では精霊に関するイメージや情報を得たメディア、そして、精霊の認知イメージについて考察する。

まず、全体の概要についてだが、有効回答は450部、そのうち女性312名(69.3%)、男性138名(30.6%)であった。年齢別では、18-25歳が356名(79.1%)、26-35歳は70名(15.6%)、36-50歳は17名(3.8%)、そして、50歳が7名(1.6%)となっている。また、大学間の比率について、タマサート大学の学生は370名(82.2%)、チュラーロンコーン大学の学生は80名(17.8%)である。

対象者の出身地域については以下の通りである。バンコク出身者は285名(63.3%)、バンコクを除くタイ中部は40名(8.9%)、南部は38名(8.4%)、東北部29名(6.4%)、東部26名(5.8%)、北部は22名(4.9%)、そして、西部は10名(2.2%)となっている。信仰している宗教に関しては、仏教徒は412名(91.6%)、無宗教は20名(4.4%)、キリスト教徒は9名(2.0%)、イスラム教徒は7名(1.6%)、その他は2名(0.4%)である。

次に、1) 精霊に関するイメージや情報を得たメディア、2) 連想される精霊イメージ属性、3) 精霊の性格に関するイメージ、以上3つの項目への回答集計結果を説明し、分析しておきたい。

第一に、精霊に関するイメージや情報を得たメディアについての分析結果を表1に示した。この表からも分かるように、半数近くの人々は精霊に関する情報をテレビドラマから得ていると回答している(49.8%)。第2位のテレビ番組が15.3%、ドラマ以外のテレビ番組を含めると、約7割がテレビを情報源にしている。第3位の映画が14%、そしてインターネット6%や書籍・学校での副読本1.8%が続く。表1の結果から、回答者の3分の2は、精霊についての情報をテレビから得ていることが分かる。スマートフォンの急速な普及に伴い、今後はインターネットによる情報収集を行う割合が増える可能性もあるが、手軽にアクセスできるテレビの影響は今後も続いていくと思われる。

また、2015年の調査結果と比べた場合、利用メディアについて大きな違いは見られない。例えば、テレビ番組とインターネットの割合は2015年の調査結果と同様である。そして、テレビドラマは2015年が45.5%、2016年は49.8%、映画は同17%と14%であった。

続いて、連想される精霊イメージの結果について見て行きたい。この質問は、「若い女性のイメージがある精霊」「中高年の女性イメージがある精霊」「若い男性のイメージがある精霊」「中高年の男性イメージがある精霊」の4つの項目に分け、それぞれ思いつく精霊名を挙げてもらったものである。

まず、「若い女性のイメージがある精霊(表2参照)」では、3割あまりが「ナン・ターニー」を挙げている(35.3%)。続いて「ナン・ナーク」が20.7%、「ナン・グワック」が9.1%、「ナン・タキアン」が8.4%、「ピー・

表1: 精霊に関するイメージや情報を得たメディア

メディア	(%)
テレビドラマ	224 (49.8)
テレビ番組	69 (15.3)
映画	63 (14.0)
インターネット	27 (6.0)
書籍	8 (1.8)
その他	45 (10.0)
特にない	14 (3.1)

ガスー」が3.8%, その他が4.9%である。何も思いつかないとした回答者の割合が14.7%である。「ナーン・ターニー」とは、ターニー種のバナナの精霊である。「ナーン・ナーク」は19世紀初頭に実際に起こったとされる物語の中で産褥死した女性ナーク(Nak)の悪霊であり、「ナーン・グワック」は福の女神, 「ナーン・タキアン」はタキアン木の精霊, そして「ピー・ガスー」は生き物の臓物を食べるとされる妖怪である。

続けて, 中高年の女性のイメージがある精霊は以下のとおりである(表3参照)。「ピー・ポープ」が一番多く30.9%, 「メー・ヤー・ナーン」が29.1%, 「メー・ポーソップ」が7.8%, 「ナーン・タキアン」が5.6%, 「ナーン・ナーク」が3.6%, 「ピー・ガスー」が3.3%, そして「ナーン・ターニー」が2.4%, その他が1.8%である。何も思いつかないと回答した者の割合は15.6%である。ピー・ポープは, ピー・ガスー同様, 生き物の内蔵を食べる妖怪である。メー・ヤー・ナーンはタイ南部や東部の沿岸地帯で有名な船霊であり, 現在では職業的運転手の間でも信仰されている。また, 「メー・ポーソップ」は稲の神である。

2015年の調査結果と比較すると, 中高年の女性の精霊についての意識に大きな違いはない。若い女性の精霊について, ナーン・ターニーの割合は, 2015年47.5%, 2016年35.3%, ナーン・ナークの割合は, 2015年2.3%, 2016年は20.7%と差が大きい。その背景として, 2016年7月に, ナーン・ナークの物語が人気のテレビドラマにリメイクされたことが考えられる。このように, 精霊のイメージには, テレビなどのメディアの影響が大きいことを改めて確認できる。

次に, 若い男性のイメージがある精霊(表4参照)は, クマーン・トーンが圧倒的に高く74.7%, テーパーラックが6.4%, ガハンが5.6%, その他が1.7%である。何も思いつかないと回答した者の割合は11.6%である。クマーン・トーンは胎児のミイラに呪術により命を吹き込んだ妖怪の名前であり, 古典作品では有名な「使い魔」である。いつの頃か「福の神」とみなされるようになり, 自宅の神棚にクマーン・トーンを祀っている庶民も多い。開運や商売繁盛

表2:若い女性のイメージがある精霊

女性の精霊	(%)
ナーン・ターニー (นางตานี)	159 (35.3)
ナーン・ナーク (นางนาค)	93 (20.7)
何も思いつかない	66 (14.7)
ナーン・グワック (นางกวัก)	41 (9.1)
ナーン・タキアン (นางตะเคียน)	38 (8.4)
ピー・ガスー (ผีกระสือ)	17 (3.8)
その他	22 (4.9)
メー・ヤー・ナーン (แม่ย่านาง)	8 (2.0)
メー・ポーソップ (แม่โพสพ)	4 (1.0)
ピー・ポープ (ผีปอบ)	3 (0.8)

表3:中高年の女性のイメージがある精霊

女性の精霊	(%)
ピー・ポープ (ผีปอบ)	139 (30.9)
メー・ヤー・ナーン (แม่ย่านาง)	131 (29.1)
何も思いつかない	70 (15.6)
メー・ポーソップ (แม่โพสพ)	35 (7.8)
ナーン・タキアン (นางตะเคียน)	25 (5.6)
ナーン・ナーク (นางนาค)	16 (3.6)
ピー・ガスー (ผีกระสือ)	15 (3.3)
ナーン・ターニー (นางตานี)	11 (2.4)
その他	8 (1.8)

を願う人びとが購入するという。また、テーパーラックは、ある地域を守る天使である。そして、ガハンは昼間には人間の姿をしているが、夜になると盗んだお盆を羽のようにして空を飛び、人々を怖がらせて回る妖怪である<sup>4)</sup>。

最後に中高年男性のイメージがある精霊は以下の通りである(表5参照)。プー・ソームが最も高く66.9%、テーパーラックが13.3%、ガハンが4.4%、その他が1.1%である。何も思いつかないと回答した者の割合は13.3%である。プー・ソームとは古い宝物を守る高齢の男性の精霊である。

2015年の結果と比べると、若い男性のイメージのある精霊について、大きな差は見られない。一方、中高年の男性イメージのある精霊

については大きな差を見出せる。2016年の調査では回答の選択肢にプー・ソームを追加したところ、プー・ソームを選んだ者の割合は2015年(自由記述式)の1.0%から66.9%に大きく増加している。また、テーパーラックの割合は、2015年64.3%、2016年13.3%であった。その背景には、2007年に制作されたプー・ソームのテレビドラマが2016年に再放送されたことがあげられよう。このように、若い女性のイメージがある精霊ナーン・ナークと同様に、中高年男性のイメージがある精霊もまた、テレビなどのメディアに出演することで、連想が促されていることがわかる。

タイの数多くある精霊たちのなかで、なぜこれらのピーたちが想起されたのかという点については、やはりテレビや映画の影響が大きいと考えられる。マスメディアがテレビドラマや映画の題材に取り上げることにより、若者の間でその名称が流布していったことは疑いない。

以上のように、女性の精霊に比べると、男性の精霊についてのイメージは、若い男性のイメージがある精霊はクマーン・トーン(74.7%)、中高年のイメージがある精霊はプー・ソーム(66.9%)と、回答が集中しているのが特徴である。

第三に、精霊の性別・年代別の性格イメージについて見てみるが、その前にまず述べておかなければならないことは、タイ人の伝統的なピー観である。第1章でも述べたように、本来ピーは、非常に感情的な存在であり、わがままで気まぐれでいたずら好きである。常に善であったり、常に悪であったりする絶対的な存在ではない。だからこそ、人間はピーを恐れ、祀り上げて慰撫しようとしてきたのである。このようなタイ人の伝統的なピー観を踏まえて、回答結果をみていきたい。まず、若い女性精霊の性格イメージは以下の通りである(表6参照)。

表4：若い男性のイメージがある精霊

男性の精霊	(%)
クマーン・トーン (กุมารทอง)	336 (74.7)
何も思いつかない	52 (11.6)
テーパーラック (เทพารักษ์)	29 (6.4)
ガハン (กะหัง)	25 (5.6)
その他	8 (1.7)

表5：中高年の男性のイメージがある精霊

男性の精霊	(%)
プー・ソーム (ปู่)	301 (66.9)
テーパーラック (เทพารักษ์)	60 (13.3)
何も思いつかない	60 (13.3)
ガハン (กะหัง)	20 (4.4)
その他	5 (1.1)
ピー・ポープ (ปู่ป๊อ)	3 (0.7)
クマーン・トーン (กุมารทอง)	1 (0.2)

復讐心強い (30.4%) や恐ろしい (24.4%) のようにネガティブなイメージが約 6 割である。中高年の女性の精霊の性格 (表 7 参照) は、恐ろしい (28.0%) のイメージが一番強いが、人間を守る (17.8%) といった母性につながる性格も回答されている。

他方、男性精霊の性格イメージは (表 8 参照および表 9 参照) は、若い男性精霊、中高年の男性精霊共にネガティブな評価とポジティブな評価が相半ばしている。若い男性の場合は、優しい (21.1%) イメージが最多で、恐ろしいのが 20.4%、人間を守るが 13.6% であり、中高年男性の場合は、恐ろしいイメージが一番最も多い (22.7%) が、人間を守るというイメージが 19.1%、優しいイメージが 17.1% である。このように男性精霊においては、女性精霊に比べるとポジティブなイメージが多く捉えられている。これが、マスメディアの影響なのか、それともそもそもタイ文化におけるジェンダーイメージに基づくものなのかについては、今後さらなる分析が必要であると思われる。

以上をまとめると、このアンケート結果をみる限り、タイの若者たちは、女性の精霊に対しては、怖い・復讐心強いといったネガティブな印象を抱き、男性の精霊については、ネガティブなイメージと並んで優しい・人間を守るといったポジティブな面が大きく見出されていて、女性の精霊よりも守護霊的・善霊的イメージを抱いていることがわかる。これは男性の精霊という言葉から想起されるピーが、クマーン・トーンという「福の神」、

表 6：若い女性の精霊の性格のイメージ

性格のイメージ	(%)
復讐心強い	137 (30.4)
恐ろしい	110 (24.4)
優しい	76 (16.9)
獰猛	48 (10.7)
冷静	22 (4.9)
人間を守る	22 (4.9)
弱い	16 (3.6)
無慈悲	10 (2.2)
人間に冷たい	9 (2.0)

表 7：中高年の女性の精霊の性格のイメージ

性格のイメージ	(%)
恐ろしい	126 (28.0)
人間を守る	80 (17.8)
優しい	63 (14.0)
復讐心強い	54 (12.0)
獰猛	46 (10.2)
無慈悲	39 (8.7)
冷静	27 (6.0)
人間に冷たい	9 (2.0)
弱い	6 (1.3)

表 8：若い男性の精霊の性格のイメージ

性格のイメージ	(%)
優しい	95 (21.1)
恐ろしい	92 (20.4)
人間を守る	61 (13.6)
無慈悲	59 (13.1)
獰猛	51 (11.3)
人間に冷たい	32 (7.1)
復讐心強い	24 (5.3)
冷静	18 (4.0)
弱い	18 (4.0)

表 9：中高年の男性の精霊の性格のイメージ

性格のイメージ	(%)
恐ろしい	102 (22.7)
人間を守る	86 (19.1)
優しい	77 (17.1)
冷静	50 (11.1)
無慈悲	49 (10.9)
獰猛	43 (9.6)
復讐心強い	35 (7.8)
人間に冷たい	6 (1.3)
弱い	2 (0.4)

そして、プー・ソームやテーパーラックという「守護霊」であったことと関係があると考えられる。

また、2016年調査の女性と男性の精霊の性格のイメージは、2015年の調査結果とほとんど同様で、全体的に大きい差は見られない。

さらに、対象者の性別と質問項目の有意な関係がみてとれるクロス集計 ( $P < .05$ ) について以下に述べたい (表 10 参照)。まず、若い女性精霊の性格のイメージについては男女の違いが見られる。具体的には、若い女性の精霊が優しいというイメージは女性 (13.5%) よりも男性 (24.6%) のほうが多いが、若い女性の精霊の復讐心が強いというイメージについては、男性 (21.0%) より女性 (34.6%) のほうが多いことがわかる。このこと背景には、精霊に付与された女性イメージゆえに、女性同士のライバル関係もまた精霊のイメージに付与されたことがあるのかもしれない。

また、性別・年代別精霊イメージについての質問に対し、「何も思いつかない」と回答した人数は、女性より男性のほうが多い。たとえば、中高年の男性の精霊について「何も思いつかない」と答えた男性の割合は比較的多く 22.7% であるが、女性の割合は 9.6% と少ない。つまり、女性の回答者の方が精霊の属性や性格、ビジュアルイメージに敏感であり、男性の方はそうでないと考えられるのではないだろうか。そして、この結果は 2015 年の結果と同様である。

なお、2015 年では、精霊に関するイメージや情報を得ているメディアの男女の違いが見られていたが、2016 年では、その性別の違いを見出すことはできなかった。

表 10：性別と若い女性精霊の性格のイメージに関するクロス表 (%)

	恐ろしい	獐猛	無慈悲	復讐心が強い	優しい	冷静	弱い	人間を守る	人間に冷たい	合計
男性	27 (19.6)	18 (13.0)	4 (2.9)	29 (21.0)	34 (24.6)	7 (5.1)	5 (3.6)	10 (7.2)	4 (2.9)	138(100)
女性	83 (26.6)	30 (9.6)	6 (1.9)	108 (34.6)	42 (13.5)	15 (4.8)	11 (3.5)	12 (3.8)	5 (1.6)	312(100)
合計	110 (24.4)	48 (10.7)	10 (2.2)	137 (30.4)	76 (16.9)	22 (4.9)	16 (3.6)	22 (4.9)	9 (2.0)	450(100)

$P < .05$ ,  $\chi^2 = 19.375$ ,  $df = 8$  (有意な関係がある)

#### 4. 分析結果の考察

以上、現代タイ社会における若者の精霊のイメージとメディアに関するアンケート調査を分析してきた。その分析結果から、まず、8割の回答者はテレビドラマやテレビ番組、映画から精霊に関するイメージや情報を得ていることが明らかとなった。その中でも、テレビは約7割と影響力が強く、男女の違いもない。

また、思いつく男性精霊は、特定の存在に集中しており、7割の回答者は若い男性の精霊としてクマーン・トーンを想起し、約7割は中高年男性イメージの精霊としてプー・ソームを想起している。その一方、女性の精霊は幾つかに分かれる。約3割の回答者は若い女性精霊としてナン・ターニーを思い出し、2割はナン・ナークを思い出している。そして、中高年の

女性の精霊としてピー・ポープとマー・ヤー・ナンを思い出している回答者は、それぞれ約3割である。また、質問に対して、精霊を思いつかないと答える男性の回答者の割合は、女性より多かった。

さらに、女性の精霊は、男性の精霊に比べると、「恐ろしい」や「復讐心が強い」といった怖い性格がイメージされるが、男性の精霊の性格は、女性の精霊よりも「優しい」や「人間を守る」といった善いイメージが強い。

2016年調査における、利用メディアや女性と男性の精霊の性格のイメージ、思いつく中高年女性精霊や若い男性精霊の結果は、2015年の調査結果とほとんど同様で、全体的に大きな差は見られていない。このように、異なる調査対象者と期間であるものの、同じような調査結果になっていることはとても興味深い。メディアを通じて、タイの若者の精霊に対するイメージは、ある程度、固定しているといえるだろう。

また、2015年と翌年の調査結果で大きな差が見られる回答をみてみても、やはりテレビによる精霊のイメージへの影響は大きいといえる。具体的には、ナン・ナークとプー・ソームは今回の調査期間である2016年にテレビドラマでリメイクされたりテレビで再放送されたりしていたため、これらの精霊を連想した者の割合がこの1年のあいだで増加したのだと考えられる。

以上の分析結果を踏まえうえて考察を行ってこよう。まず、タイの都市部の若者は、精霊信仰に関するかなりの情報をテレビから得ている。今までは社会発展の中で、人々、特に若い世代は、超自然的なものに対する関心を失い、むしろ宗教から離れていくと考えられてきた。しかし実態としては、若者たちのアニミスティックな事柄についての情報が、むしろマスメディア、特にテレビによって提供されているということが明らかになり、筆者にとっては意外であった。タイでは、精霊や幽霊をテーマにしたホラー映画が人気であるということも関係するのであろうが、同時に昔から存在する精霊の情報についてテレビを通じて獲得していることがうかがわれる。

次に、連想される男性精霊の数の少なさと女性精霊数の多さであるが、これについては、タイのテレビや映画などのメディアに登場している女性精霊の多さが影響していることは明らかであろう。たとえば、タイでは何度も映画化やテレビドラマ化された女性の精霊である「ナン・ナーク」「ナン・ターニー」は、ドラマ化の中で、その属性や性格も具体的、多面的に形作られていくため、若者たちのイメージ形成に強く影響を与えている。そして、接した映画やテレビドラマでの精霊の設定が、その精霊イメージとして個人の中に定着していく。

具体的に、最もポピュラーな若い女性精霊イメージをもつ「マー・ナーク」の事例をあげてみよう。有名な怪談「マー・ナーク」(もしくはナン・ナーク)は、19世紀初頭に実際に起こったストーリーとして今も語り継がれている。それは、戦争に行った夫の帰りを待ちながら産褥死した女性ナーク(Nak)の悪霊(ピー・プラーイ)が、村人たちに次々と憑依して殺害

するという話である。この人気の怪談は、テレビや映画で何度も取り上げられており、今でもリメイクが繰り返されている。具体的には、1979年、1989年、1994年、1996年、1999年、2000年、2013年、そして、2016年には8回目のリメイク版がテレビドラマとして放映された。また、映画においては1927年から2013年にかけて、ホラー映画をはじめコメディ映画から3D映画、アニメーションにいたるまで、さまざまなバージョンで計24回映画化された。そのほか、ラジオドラマでは10回、書籍では小説・マンガを合わせて10回、演劇では4回、リメイクされている。

しかし、タイで最も恐れられるピー・プラーイであったメー・ナークが、実は夫の帰りを待ち焦がれ再会を果たせずに亡くなった可哀想な貞女の霊であるというイメージの変化や、高僧トーの出会いにより成仏するというストーリーは、メディアが何度も実写化する中で付加されていったイメージであると考えられる。現代タイ人の「メー・ナーク」イメージの変化に、メディアが大きな影響を及ぼしていることがうかがわれる<sup>5)</sup>。

また、若い男性の精霊として最もポピュラーなクマーン・トーンは、2009年のテレビ番組で有名人がクマーン・トーンのご利益を得て事業で成功をおさめた話が明らかになり、開運、商売繁盛のお守りとして広く認知されるようになった。そして、テレビドラマや映画を通して、タイ人の間にクマーン・トーンについての認知度が上昇した<sup>6)</sup>。

最後に、女性精霊には怖いイメージがつきまとっている反面、男性精霊のイメージはそれほどでもないことに関しては、テレビや映画などで、男性精霊や女性精霊がどのように描かれてきたのかということと強い関係があると考えられる。タイのホラー映画やテレビドラマでは、男性の精霊よりも、女性の精霊が多く登場し、怖い存在として描かれる傾向にある。つまり、タイのメディア自身が、復讐心が強く人間を取り殺すような恐ろしい女性精霊イメージを形成してきたと考えることもできるのである。タイの若者たちはこうしたメディアに表象される精霊の影響を受け、今後も現代の精霊イメージを再生産していくのであろう。

## 5. おわりに

以上、現代タイ社会における若者の精霊信仰にメディアが及ぼす影響について、2016年9月にバンコクで実施したアンケート調査に基づき考察した。タイの若者はマスメディア、とりわけテレビというメディアを通じて精霊に関するイメージや情報を得ている。また、男性の精霊イメージでは特定の存在に集中する傾向にある一方で、女性の精霊イメージでは幾つかに分かれる。そして、女性の精霊は怖い性格がイメージされるが、男性の精霊の性格はネガティブなイメージと並んでポジティブな面が大きく見出され、女性の精霊よりも善いイメージが強い。こうしたことは、2015年の調査結果と比べてみても、ほとんど違いが見られない。

筆者は質問票の中で、「現代社会に精霊信仰は必要と思うか」という質問も行っている。これ

に対し、約8割の回答者が「必要である」と答えており、たいへん印象的であった。仏教教育の盛んなタイでは、若者は日本と比べて、より宗教や超自然的な事柄について深く考えているのかも知れない。またタイでは、マスメディアも若者のスピリチュアルな思考に影響を及ぼしていることも明らかになった。前述の通り、21世紀のタイにおいても、若者たちが伝統的な精霊信仰とつながるのは、やはりまたテレビなのである。

本研究は、先駆的研究としての性格上、いくつもの限界と課題がある。1つには、タイ社会における精霊信仰とメディアの影響の結果について、文化的、社会的要因のさらなる考察が必要である。また、従来の研究では、アジア社会の事例をとりあげた国際比較研究が十分に蓄積されてきたとは言いがたい。今後は東南アジア諸国や日本など他のアジア諸国との比較も求められている。アンケート調査の対象についても、本研究では主にバンコクを中心とした大学生男女450名に限定されていた。さらにタイの他の地域や多様な年齢層を対象に調査・分析していけば、その結果についてより厚みのある記述が可能になるだろう。そして、今後とも、タイにおけるメディア状況や精霊信仰の変化を把握するため、継続的な調査研究が必要であることも書き加えておきたい。

[付記] 本研究は、「東アジアにおける宗教的シンクレティズムの社会学的研究—日本・中国・東南アジア—」(科学研究費補助金基盤研究(B)海外学術調査 研究代表者 四国学院大学・関泰子)による研究成果の一部である。この場を借りて、調査の機会を与えて下さった関泰子氏、調査を手伝って下さったタイ・タマサート大学・Associate Prof. Anna Choompolsathien 氏、Assistant Prof. Prapaipit Muthitachareon 氏、そして、チューラーロンコーン大学・Dr. Montakarn Chimmamee 氏に深謝の意を表したい。

## 注

- 1) 速水洋子 (2009) を参照。
- 2) プラヤー・アヌマーンラーチャトン (1987) を参照。
- 3) ポンサピタックサンティ ピヤ (2016) および、ポンサピタックサンティ ピヤ (2017) を参照。
- 4) タイランドハイパーリンクス (2015年9月22日) を参照。
- 5) 津村文彦 (2009) および Wikipedia (2017b年8月15日) を参照。
- 6) 野津幸治 (2017) を参照。

## 参考文献

- 猪口孝編 (2005) 『アジア・バロメーター 都市部の価値観と生活スタイル—アジア世論調査 (2003) の分析と資料』明石書店。
- 橋本 (関) 泰子 (2012) 『アジアにおける精霊信仰の近代の変容—ジェンダー・地域・エスニシティに及ぼす影響—』平成21年度～平成23年度科学研究費補助金研究成果報告書, 四国学院大学。
- 速水洋子 (2009) 「精霊信仰」日本タイ学会編 『タイ事典』めこん, p. 207。

- カムチュー・チャイワット, アーロン・スターン (2005) 「タイ：民主主義における繁栄の優位」猪口孝 (他) 編『アジア・パロメーター都市部の価値観と生活スタイル：アジア世論調査 (2003) の分析と資料』明石書店, pp. 85-108。
- 野津幸治 (2017) 「タイにおけるクマントーン信仰について」『四国学院大学論集』151号, pp. 5 - 26。
- ボンサピタックサンティ ピヤ (2016) 「現代タイ社会における若者の精霊信仰にメディアが及ぼす影響」『東アジア評論』第8号, pp. 65-74。
- ボンサピタックサンティ ピヤ (2017) 「タイの若者のスピリチュアリズム傾向についての調査報告」『四国学院大学論集』151号, pp. 27-48。
- プレーヤー・アスマーンラーチャトン (1987) 『タイ民衆生活誌 (1)―祭りと信仰―』森幹男編訳, 勁草書房。
- 関泰子 (2017) 「現代タイ社会における呪術」『四国学院大学論集』150, pp. 1-24。
- Tambiah, Stanley (1970) *Buddhism and the Spirit Cults in North-East Thailand*, London: Cambridge University Press.
- 津村文彦 (2009) 「タイの精霊信仰におけるリアリティの源泉―ピーの語りにもみる不可知性とハイパー経験主義―」『福井県立大学論集』第33号, pp. 1-24。
- 津村文彦 (2015) 『東北タイにおける精霊と呪術師の人類学』めこん。
- Wongboonsin, Patcharawalai, Montakarn Chimmamee (2017) "Spiritualism of Urban Middle Class in Thailand," *Shikoku Gakuin University Treatises* (四国学院大学論集), 151, pp. 49-72.

#### ウェブサイト

- CINEMATODAY (2016年2月1日) 『ナンナーク』 <http://www.cinematoday.jp/movie/T0000445>
- 宗教文化推進センター (2012年5月10日) 「宗教文化教育の教材に関する総合研究」(科学研究費補助金基盤研究(B)研究代表者 國學院大學教授・井上順孝) による研究成果 <https://sites.google.com/site/cercfilms/countries/thailand>
- タイ映画ライブラリー (2016年2月1日) 「タイ映画の中で活躍する有名なピー (霊, お化け) たちを紹介しよう」 <http://www.asia-network.co.in/Zatsugaku1.htm>
- タイランドハイパーリンクス (2015年9月22日) 「ガハンはタイで一番有名な男のオバケ」 <http://www.thaich.net/news/20130817a.htm>
- 津村文彦 (2011) 「論文の内容の要旨 タイ東北部における精霊と知識専門家をめぐる人類学的研究」 <http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gakui/data/h23/217629/217629-abst.pdf>
- Wikipedia (2017a年8月15日) 「ピー信仰」 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%94%E3%83%BC%E4%BF%A1%E4%BB%B0>
- Wikipedia (2017b年8月15日) 「Mae Nak Phra Khanong」 [https://en.wikipedia.org/wiki/Mae\\_Nak\\_Phra\\_Khanong](https://en.wikipedia.org/wiki/Mae_Nak_Phra_Khanong)

付録：アンケート調査票（関連のある質問）精霊ピー・サーン・テーワダー信仰に関する質問

1. 若い女性のイメージがある精霊ピー・サーン・テーワダーは何ですか。
  - 1) ナーン・ターニー      2) ナーン・グワック      3) ピー・ガスー
  - 4) ナーン・タキアン      5) ナーン・ナーク      6) メー・ポーソップ
  - 7) メー・ヤー・ナーン      8) ピー・ポーブ
  - 9) その他（記入.....）      10) ない
2. 中高年女性のイメージがある精霊ピー・サーン・テーワダーは何ですか。
  - 1) ナーン・ターニー      2) ナーン・グワック      3) ピー・ガスー
  - 4) ナーン・タキアン      5) ナーン・ナーク      6) メー・ポーソップ
  - 7) メー・ヤー・ナーン      8) ピー・ポーブ
  - 9) その他（記入.....）      10) ない
3. 若い男性のイメージがある精霊ピー・サーン・テーワダーは何ですか。
  - 1) クマーン・トーン      2) テーパーラック      3) ガハン
  - 4) プー・ソーム      5) ピー・ポーブ
  - 6) その他（記入.....）      7) ない
4. 中高年男性のイメージがある精霊ピー・サーン・テーワダーは何ですか。
  - 1) クマーン・トーン      2) テーパーラック      3) ガハン
  - 4) プー・ソーム      5) ピー・ポーブ
  - 6) その他（記入.....）      7) ない
5. 若い女性だと思ふ精霊はどのような性格だと思いますか。
  - 1) 恐ろしい      2) 獐猛      3) 無慈悲      4) 復讐心が強い      5) 優しい
  - 6) 冷静      7) 弱い      8) 人間を守る      9) 人間に冷たい
6. 中高年女性だと思ふ精霊はどのような性格だと思いますか。
  - 1) 恐ろしい      2) 獐猛      3) 無慈悲      4) 復讐心が強い      5) 優しい
  - 6) 冷静      7) 弱い      8) 人間を守る      9) 人間に冷たい
7. 若い男性だと思ふ精霊はどのような性格だと思いますか。
  - 1) 恐ろしい      2) 獐猛      3) 無慈悲      4) 復讐心が強い      5) 優しい
  - 6) 冷静      7) 弱い      8) 人間を守る      9) 人間に冷たい
8. 中高年男性だと思ふ精霊はどのような性格だと思いますか。
  - 1) 恐ろしい      2) 獐猛      3) 無慈悲      4) 復讐心が強い      5) 優しい
  - 6) 冷静      7) 弱い      8) 人間を守る      9) 人間に冷たい

9. これらの精霊ピー・サーン・テーワダーの性別年齢イメージ・情報はどこから得ましたか。

- 1) テレビドラマ                      2) 映画      3) テレビ番組                      4) インターネット  
5) 書籍・学校での副読本              6) その他（記入.....）                      7) ない

#### 個人情報

10. 性別      1) 男性                      2) 女性  
11. 年齢      1) 18-25 歳                      2) 26-35 歳                      3) 36-50 歳                      4) 50 歳以上  
12. 出身地    1) バンコク                      2) 中央部                      3) 北部                      4) 東北部  
                  5) 東部                      6) 西部                      7) 南部  
                  （記入.....）  
13. 宗教      1) 仏教                      2) キリスト教                      3) イスラム教  
                  4) その他（記入.....）                      5) 無宗教

アンケート調査票 (タイ語)

**คำถามทั่วไปเกี่ยวกับผีสาวเทวดา**

1. ถ้าพูดถึงผีสาวเพศหญิงที่อายุไม่มาก ผีสาวที่ท่านนึกถึงมากที่สุดคืออะไร

- 1) นางดานี      2) นางกวัค      3) ผีกระสือ      4) นางตะเคียน      5) นางนาค  
6) แม่โพสพ      7) แม่น่านาง      8) ผีปอบ      9) อื่นๆ (กรุณาระบุ.....) 10) ไม่มี

2. ถ้าพูดถึงผีสาวเพศหญิงที่อายุมาก ผีสาวที่ท่านนึกถึงมากที่สุดคืออะไร

- 1) นางดานี      2) นางกวัค      3) ผีกระสือ      4) นางตะเคียน      5) นางนาค  
6) แม่โพสพ      7) แม่น่านาง      8) ผีปอบ      9) อื่นๆ (กรุณาระบุ.....) 10) ไม่มี

3. ถ้าพูดถึงผีสาวเพศชายที่อายุไม่มาก ผีสาวที่ท่านนึกถึงมากที่สุดคืออะไร

- 1) กุมารทอง      2) เทพารักษ์      3) กะหัง      4) ปู่โสม      5) ผีปอบ  
6) อื่นๆ (กรุณาระบุ.....)      7) ไม่มี

4. ถ้าพูดถึงผีสาวเพศชายที่อายุมาก ผีสาวที่ท่านนึกถึงมากที่สุดคืออะไร

- 1) กุมารทอง      2) เทพารักษ์      3) กะหัง      4) ปู่โสม      5) ผีปอบ  
6) อื่นๆ (กรุณาระบุ.....)      7) ไม่มี

5. ท่านคิดว่าผีสาวเพศหญิงที่อายุไม่มากมีลักษณะนิสัยอย่างไร

- 1) น่อกลัว      2) คุร้าย      3) เข้ม      4) อหามตพยายาม      5) ใจดี      6) ใจเย็น      7) อ่อนแอ  
8) ปกป้องคน      9) ทำร้ายคน

6. ท่านคิดว่าผีสาวเพศหญิงที่อายุมากมีลักษณะนิสัยอย่างไร

- 1) น่ากลัว 2) ดูร้าย 3) เขี้ยว 4) อาฆาตพยาบาท 5) ใจดี 6) ใจเย็น 7) อ่อนแอ  
8) ปกป้องคน 9) ทำร้ายคน

7. ท่านคิดว่าผีसागเพศชายที่อายุไม่มากมีลักษณะนิสัยอย่างไร

- 1) น่ากลัว 2) ดูร้าย 3) เขี้ยว 4) อาฆาตพยาบาท 5) ใจดี 6) ใจเย็น 7) อ่อนแอ  
8) ปกป้องคน 9) ทำร้ายคน

8. ท่านคิดว่าผีसागเพศชายที่อายุมากมีลักษณะนิสัยอย่างไร

- 1) น่ากลัว 2) ดูร้าย 3) เขี้ยว 4) อาฆาตพยาบาท 5) ใจดี 6) ใจเย็น 7) อ่อนแอ  
8) ปกป้องคน 9) ทำร้ายคน

9. ภาพลักษณ์และข้อมูลของผีसागเทวดานั้น ท่านคิดว่าท่านได้รับมาจากสื่อไหนมากที่สุด

- 1) ละครทางโทรทัศน์ 2) ภาพยนตร์ 3) รายการทางโทรทัศน์ 4) อินเทอร์เน็ต  
5) หนังสือ/หนังสือเรียน 6) อื่นๆ (กรุณาระบุ.....) 7) ไม่มี

**คำถามเกี่ยวกับผู้ตอบแบบสอบถาม**

10. เพศ 1) ชาย 2) หญิง

11. อายุ 1) 18 – 25 ปี 2) 26 – 35 ปี 3) 36 – 50 ปี 4) มากกว่า 50 ปี

12. ภูมิลำเนา 1) กรุงเทพฯและปริมณฑล 2) ภาคกลาง 3) ภาคเหนือ 4) ภาคอีสาน

5) ภาคตะวันออก 6) ภาคตะวันตก 7) ภาคใต้

(กรุณาระบุจังหวัด.....)

13. ศาสนา 1) พุทธ 2) คริสต์ 3) อิสลาม 4) อื่นๆ (กรุณาระบุ.....) 5) ไม่มีศาสนาที่นับถือ

# Animistic Belief among Thai Youth and Media Effect (2):

A Case Study of Survey of University Students in Bangkok in 2016

Piya PONGSAPITAKSANTI

## Abstract

The objective of this study is to examine media effect toward animistic belief among Thai youth. 450 questionnaires were filled out by the university students from Thammasat University and Chulalongkorn University in Bangkok in September 2016. This study in 2016 was based on and adapted from the results of previous survey obtained in 2015 to focus on the animistic belief of Thai youths and media effect in 2016, and to find out their attitude changes.

The research results reveal that Thai youths mostly receive the information and image about spirit and ghost via television dramas, television programs, and movies. While the number of male spirit is limited only to one or two spirits, there are more varieties in the female ones. This implies that the female spirits appear more frequently than the male spirits in Thai media. Moreover, the image of female spirits is scared and vengeful, whereas the image of male spirits, compared to the female ones, is kind and protecting.

In conclusion, this result shows that the Thai media, especially television and movie, has greatly influenced Thai youths' perception toward spirit and ghost. In addition, the survey results in 2016 do not differ much from those in 2015. However, some changes in the research results suggest that the spirits appearing in the media will be recalled more easily than those which do not.

**Keywords:** animistic belief, image of spirit, Thailand, youth, media

